

「うるま市海外短期留学派遣事業」が7月24日～8月22日の日程で行われ、市内の中学生10人が、アメリカ カリフォルニア州へ派遣されました。

子どもたちは約1か月間のホームステイを体験し、異文化や沖縄の文化についての理解を深めました。

## ホームステイプログラムを体験して

あげな中学校 2年  
飯島 沙和(いじま さわ)

私は、アメリカ合衆国カリフォルニア州ロス郊外のパサデナで、ホームステイを体験しながらサマースクールへ参加する大きなチャンスを体験できたことを本当に感謝いたします。

アメリカの国・文化に大きく期待を抱きながら飛行機に乗った私は、Graves familyに出会いました。ホスト先での最初の2・3日は恥ずかしさが先になり、英会話の間違ひばかりを気にする性格がとてマイナスになる事を実感しました。そして、30日間のプログラムは無駄には出来ないと自分に言いきかせて、少しの会話力でもコミュニケーションを

とろうと努力しました。その結果、逆に間違いを楽しむようになり、その事がコミュニケーションをとるきっかけとなったように思います。

日々過ごすうちに自然と家族と接している自分があって、とても楽しい思い出を作ることが出来ました。

別れの日に、「COME BACK TO AMERICA!!」という言葉を泣きながらかけてくれた家族に、また来年も行くことを誓いました。本当にアメリカの家族ができた様に思います。

私はこの夏休みの経験を通して、アメリカの文化や語学を学んだだけでなく、自分でできひらくことの大切さを学びました。これからいろんな面で、生かせるように努力したいです。皆様にこのような経験をさせてもらった事を本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。



写真 右から2人目が飯島さん



写真 左が佐次田さん



## 米国短期留学を終えて

与勝中学校 2年  
佐次田夏歩(さした かほ)

約11時間のフライトを終え、アメリカの地に立ったときの私は、「これは、本当に現実なの？それとも夢なの!？」の一言でした。

乾いた空気と道路のヤシの木や、映画でみるような街並みが、とても夢の様に思えました。ホストファミリーと対面した時も、あまりの感動に、自分のおかれている状況が実感できずにいました。また、その夜も

時差のせいもあってか、なかなか眠れませんでした。あの日のことは忘れません。

私はアメリカで30日間生活をして、様々な体験をして沢山のことを学びました。

カリフォルニアの自然や、アメリカの食事や宗教などの生活習慣。ロサンゼルスには色々な人種が住んでおり、日本人に嫌悪感を示す人もいること。米軍基地が沖縄にある事を知らない人が多いことなど。

中でも、私が一番感じたことは、人と会話すること、意思を伝えられることの大切さです。

私にとって、ホストファミリーに少し話しかけるだけでも勇気のいることでした。伝わるかとドキドキしながら、知っている単語を並べたり、ジェスチャーをしたりと大変でしたが、短くても会話が成立したときの喜びは大きく、体験しないと分からないものです。

英語が話せると沢山の国の人と会話が出来ます。文化の異なる外国人の人でも同じ言葉で会話をすれば、相手の事を少しでも理解する事ができ、相手を思いやる気持ちも湧いてきます。大げさかもしれませんが、こんな小さなことから国際平和が始まると思います。

私はまず、身近な人との会話を大切にし、日本語の良さも見直していきたいと思えます。